

Y.K 様

愛用ミシン： センサークラフト 7300

魔法のミシン


ある日、ジャノメのセールスマンを名乗る男の人が、我が家にやって来ました。もう 50 年以上も前のことなのに、私は今でも、そのことをはっきりと覚えています。私は当時、小学校 4 年生。足が少し悪かったせいか運動が苦手で、徒競走はいつもビリ。勉強も嫌いで学校に行くのが嫌でした。よく学校をズル休みしては、親に怒られてばかりいました。

そんな私に男の人は、ハンカチと巾着袋をくれたのです。ハンカチと巾着袋には、かわいい花の刺しゅうなどが沢山してありました。「その刺しゅうは、電動ミシンなら簡単にできるんです。それに小学校の高学年になると家庭科の授業でミシンを使うようになります。このミシンがおすすめです」男の人は母にミシンのカタログを見せながら言いました。

当時は、まだ、足踏みミシンが主流で電動ミシンは珍しく、高価なものでした。私は電動ミシンが欲しくてたまりませんでした。母が買ってくれるとは思えませんでした。でも、家にミシンがないことと、学校で必要なら仕方がないという理由で買ってくれることになったのです。

それから数日後に、男の人はミシンを届けにやって来ました。大きな木の箱のような形をしていて、上部の板が左右に開きます。男の人は、その中から真っ白なミシンを起こすように取り出しました。そして、ミシンで縫い始めたのです。花などの形が連続してあつという間に縫われていきます。私は、その様子に驚き、目を丸くして見ていました。

その頃、私の好きなテレビ番組は、魔法使いの主人公が活躍するアニメものばかりでした。届けられたミシンは、まるで魔法使いの道具のように思えたのを今でも覚えています。 ミシンが届く



と、今度はジャノメから女の人 came ました。その人が 10 回にわたって自宅でミシンの使い方を教えてくれるというのです。彼女はとても優しく、丁寧に教えてくれました。私は彼女のおかげでミシンの使い方を覚え、ミシンに夢中になり、いろいろなものを作りました。母も彼女と親しくなり、いろいろな話をしていたようです。特に独身だった彼女に結婚を勧めていました。相手はセールスマンの彼です。母は二人がお似合いだと思い、結婚を勧めていたのです。

ある日、二人がそろって我が家に結婚の報告に来てくれました。母がとても喜んでいたのを思い出します。お二人の結婚は、ミシンと母がとりもった縁だったのでしょうか。私もミシンのおかげで自分の人生が変わったと思っています。小学校 4 年生の時、何の取り柄もない、やる気もない自分が変われたのです。ミシンと出会ったことで、物作りの楽しさを知り、のめり込んでいきました。

20 代の時は、東京の玩具メーカーで人形やぬいぐるみのデザインをしていました。人形服などのサンプルを作っていたため、ミシンは必需品でした。30 代で故郷の福島県に戻り、町の社会教育指導員などの仕事で手芸を教えていました。手芸コンクールに応募したり、昨日展を開いたこともあります。

子どもが生まれてからは、子どものために服を作ったり、小物を作ったりしました。今でも作品を作り続けているのでミシンは手放せません。約 50 年前に我が家にやって来たミシンは 20 年間、よく動いてくれました。糸調子が悪くなり修理を頼んだのですが、直すことは無理でした。とても愛着のあったミシンです。20 年間、よく動いてくれたことに感謝しました。2 代目も迷わずジャノメのミシンを買いました。すでに 30 年が過ぎっていますが、今だに使っています。

小学校 4 年生の私は、魔法にかかったようにミシンに夢中になりました。時は過ぎ、私は 60 代です。でも、まだ、ミシンの魔法は解けていないようです。これからもジャノメミシンを頼りに創作を続けていきたいと思っています。